

看護栄養学部 看護学科

系列	領域	授 業 科 目 名	履修 方法	履修単位数		備 考	
				学部共通	専門科目		
	育基 科礎 目教	臨床心理学概論	L	2			13
		認知症援助論	L	2			15
専 門 教 育 科 目	看護 領の 基盤 域となる	看護原論	L		2		16
		小児看護学	S		2		18
		基礎看護技術Ⅰ（基本技術）	S		2		20
		看護診断学	S		1		23
	と看護 域なるの 領域軸	生体防御・感染看護論	L		2		25
計				4	9		
合 計				13			

シラバス参照

シラバス検索 > シラバス参照

印刷する

講義名	臨床心理学概論		
代表ナンバリングコード	00014BG02		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
授業方法	対面授業		
単位	2		
単位区分	選		

所属名称	ナンバリングコード
共通科目 共通科目	00014BG02

担当教員

氏名

◎ 餅原 尚子

ディプロマ・ポリシーとの関連	◎知識・理解 ○汎用的技能 ○態度・志向性
到達目標	病み、悩み、苦悩する人間の「みため（アセスメント）」と「かかわり（心理療法）」について学ぶ。本講義では、人間を理解することの意味、かかわりのありよう（「生きる意味」への心理支援）について臨床心理学の視点から理解するのがねらいである。 1. 「臨床心理学」とは何かを理解することができる。 2. 臨床心理学的アセスメントについて理解することができる。 3. 心理療法について理解することができる。 4. 現代の病理現象（トラウマ、自殺、虐待など）に鑑みつつ、事例等を通して学び、臨床心理学を学ぶ上での倫理やスーパーヴィジョンについて感得することができる。
授業の展開計画	必要に応じて、話題のトピックスを取り上げたり、受講生が積極的に参加できるよう、「やってみよう」方式のアセスメント、討論等を取りあげる。 精神科病院、保健所、学校（スクールカウンセリング、緊急支援、特別支援教育）、被害者・被災者支援、メンタルヘルス（公務員、会社員、支援者等）における心理臨床の実務経験に基づく業務の実際を活かした内容になる。

授業計画表

回	内容
第1回	臨床心理学とは何か（テキストP1～4） ・臨床心理学にもとめられる人間観（ネガティブ・ケーパビリティとポジティブ・ケーパビリティ） ・発達観
第2回	心理支援と人間観（人間理解と支援に必要な精神的風土）（テキストP4～9） ・教育観 ・臨床観
第3回	臨床心理アセスメント：人間理解の方法（テキストP11～15） ・面接法、観察法、診断基準
第4回	心理検査の意味と背景（テキストP15～18） ・「受ける側」と「する側」のありよう ・テスト・バッテリー（心理検査の種類とその組み合わせ）
第5回	心理療法と3つの治療仮説（テキストP45～48） ・精神分析療法 ・行動療法 ・人間学的心理療法
第6回	・こどもの心理療法（遊戯療法：プレイ・セラピー）（テキストP51～57）

第7回	傷つきやすい人間の心理（1）（テキストP99～103） ・ 自我、自己の拡散と喪失 ・ 自我関与 ・ 自我の強さ ・ 自我同一性拡散
第8回	傷つきやすい人間の心理（2）（テキストP103～104） ・ 自我、自己の拡散と喪失 ・ 自己実現 ・ 自己概念
第9回	情緒障害の心理（テキスト）P109～115 ・ 神経症的不登校 ・ 選択性緘黙
第10回	「いじめ」現象のアセスメントと心理支援（テキストP118～124） ・ いじめ側」の心理 ・ 見て見ぬふりをする側の心理 ・ いじめられている側の心理
第11回	病める人間（テキストP125～139） ・ 心の病気（統合失調症、神経症、心身症） ・ 体の病気（エイズ）
第12回	現代社会と高齢化現象（テキストP140～147） ・ 高齢の意味 ・ 病気や障害のある高齢者
第13回	メンタルヘルスと人間理解（テキストP149～163） ・ 感情労働、共感疲労 ・ 惨事ストレス（CIS） ・ 発達障害の苦悩と周囲の苦悩（カサンドラ症候群）
第14回	事件・事故・災害後の被災者・被害者の心理支援（テキストP165～204） ・ PTSD（心的外傷後ストレス障害） ・ 支援者の傷つき（CIS：惨事ストレスなど） ・ 緊急支援 ・ サイコロジカル・ファースト・エイド（PFA） ・ トラウマ・インフォームド・ケア
第15回	臨床心理学における倫理とスーパーヴィジョン（テキストP205～222） ・ 倫理感覚の涵養 ・ スーパーヴィジョン（生涯続く自己研鑽） ・ 「生きる意味」の確立
履修上の注意事項	守秘義務を遵守すること。 何回でも聴講可（毎年、新しいトピックスを取り上げながら、講義を展開する）。
準備学習（予習・復習等）	シラバスを参照し、講義開始前にその都度、テキストを熟読し、専門用語等を調べておくこと。講義終了後はファイル（ノート）を作成し、いつでも復習できるようにしておくこと。1回の授業に対し4時間程度の時間外学習をすること。
評価方法	到達目標に対して、臨床心理学とは何かを理解し、アセスメントと心理療法について事例を通して感得していることを中心に評価する。「関心・意欲の程度をみる授業への取り組み」（30%）、「臨床心理学についての理解と心理支援についての理解度、定着度をみる学期末の試験」（70%）の総合評価とする。
テキスト	久留一郎・餅原尚子著（2019）『臨床心理学－「生きる意味」の確立と心理支援－』八千代出版（全員購入）
参考文献	恩田彰・伊藤隆二編（1999）『臨床心理学辞典』八千代出版
学修のフィードバック方法	毎回、100字程度の感想文を提出し、その内容に応じて、次回の講義の最初にフィードバックする。
備考	事例等について、「シンク・ペア・シェア」の時間をもつ。



講義名	認知症援助論		
代表ナンバリングコード	00049BG02		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
授業方法	対面授業		
単位	2		
単位区分	選		

所属名称	ナンバリングコード
共通科目共通科目	00049BG02

担当教員
氏名
◎ 小楠 範子

ディプロマ・ポリシーとの関連	◎知識・理解 ○態度・志向性
到達目標	認知症がどのような疾患なのか、また認知症をもつ人とその家族がどのような課題に直面しているのかを理解し、自分の立場でどのような支援ができるかを考えることができるようになる。 1. 認知症がどのような疾患なのか説明できる。 2. 認知症をもつ人とその家族がどのような課題に直面しているのか述べることができる。 3. 認知症啓発のために自分に何ができるかを考え、述べることができる。
授業の展開計画	高齢化の進展とともに、認知症と共に生きている人も増加している。この科目は、認知症に対する正しい知識と理解をもち、できる範囲で手助けする人が増えることを願って開講されている。認知症の理解者が一人でも増えることで、認知症があっても住みやすい町づくりにつながっていくことを目指している。授業の展開では、認知症とそのケアについての学習を中心にすすめ、それらの学習内容を踏まえた上で、後半では認知症啓発のため自分の立場でどのようなことができるのかを考えていく。 高齢者ケア施設における看護師としての実務経験による具体的な例をあげながら授業を展開する。

授業計画表	
回	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	認知症を引き起こす病気① 認知症とは
第3回	認知症を引き起こす病気② 認知症の原因になる代表的な病気
第4回	認知症をもつ人の困りごと① 認知症が生活に及ぼす影響
第5回	認知症をもつ人の困りごと② 必要な対応
第6回	認知症をもつ人と家族の気持ち① 事例紹介
第7回	認知症をもつ人と家族の気持ち② 事例からの考察
第8回	認知症をもつ人を支える社会システム
第9回	若年性認知症
第10回	認知症をもつ人の尊厳を支えるために
第11回	認知症ケアの歴史
第12回	認知症予防
第13回	認知症啓発のために私にできること① 個人ワーク
第14回	認知症啓発のために私にできること② グループワーク
第15回	まとめ

履修上の注意事項	1. 課題等の提出期限は厳守すること。 2. 疑問や意見等をもち積極的に授業に参加すること。 3. 認知症に関するニュース等に関心をもって、学習内容と関連づけて考えるよう努力すること。 4. 本講義は認知症キャラバンメイトが担当しており、認知症サポーター養成講座も兼ねている。 ・認知症サポーターとなるためには単位を修得することが条件 ・認知症サポーターとは ：認知症について正しく理解し、偏見をもたず、認知症の人や家族を温かく見守ることができる応援者
準備学習（予習・復習等）	・配布した資料は、その日の復習に活用すること。1回の授業に対し4時間程度の時間外学習。 ・予習および復習課題についてはMoodleに提示する。Moodleは授業毎に必ず確認すること。
評価方法	授業の目的・目標に照らし、以下の内容で評価する。 ・学習態度（参加度、授業毎のリフレクション）：30％ ・授業のテーマに応じて出された課題：70％（ルーブリック評価、対象となる課題は授業時に提示する）
テキスト	配布資料あり。
参考文献	・河野和彦(2016)『ぜんぶわかる認知症の事典』成美堂出版 ・日本認知症ケア学会(2022)『改定5版 認知症ケアの基礎』日本認知症ケア学会 ・日本認知症ケア学会(2022)『改定5版 認知症ケアの実践1：総論』日本認知症ケア学会 ・鈴木みずえら編(2018)『パーソン・センタード・ケアでひらく認知症看護の扉』南江堂 他
学修のフィードバック方法	・課題（試験やレポート等）については、フィードバックを行う。 ・ただし、単位認定試験（レポート等）については、予め科目担当者が指定した期限内に申し出のあった学生のみ対応する。
備考	アクティブラーニングの教授法：グループワーク

シラバス参照

シラバス検索 > シラバス参照

印刷する

講義名	看護原論		
代表ナンバリングコード	21149SB14		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
授業方法	対面授業		
単位	2		
単位区分	必		

所属名称	ナンバリングコード
看護栄養学部看護学科	21149SB14

担当教員
氏名
◎ 小楠 範子

ディプロマ・ポリシーとの関連	◎汎用的技能、○知識・理解、○態度・志向性、○総合的な学習経験と創造的思考力
到達目標	看護は、人間の健康に焦点を当て、その人とその環境に働きかけ、人々が自身の持てる力で最適な健康状態を生み出し生活できるように援助する働きである。また、看護は人間を対象とした実践の科学である。本科目では、看護が人間の健康や生活に関わることを理解し、看護を支える主要な考え方、看護の方法、看護者の役割について学ぶ。講義終了時には、人間・環境・健康・看護を捉えて、看護の概念を説明できることを期待する。到達目標は以下の通り。 1. 看護は人間の健康や生活に関わることを例示して説明できる。 2. 看護を支える主要な考え方を学び、看護の役割と機能を説明できる。 3. 人間・環境・健康・看護を捉えて、看護の概念を説明できる。
授業の展開計画	この科目は「看護の基盤となる領域」の「看護論」に位置づけられ、看護の基礎及び看護の対象を理解するために必要な基礎を養うものである。 授業の展開においては、看護が人間の健康や生活に関わることを理解し、看護を支える主要な考え方、看護の方法、看護者の役割について学ぶ。文献学習やグループ学習、また6月に実施される「看護対象実践」で体験した看護場面を踏まえ、教科書での学びと実際の看護場面をつなげ、看護とは何か、看護の独自機能をどのように発揮していくのか、社会の期待に応えるために看護が担う役割は何か、等を考察する。 本授業は、看護場面のイメージが容易となるよう、施設等における看護師としての実務経験による事例を含んだ内容になる。

授業計画表	
回	内容
第1回	看護とは(1) 看護の定義・対象・目的
第2回	看護とは(2) 看護の場、看護の機能
第3回	看護の変遷(1) ナイチンゲールが看護に与えた影響
第4回	看護の変遷(2) 看護の歴史・現在① グループ学習
第5回	看護の変遷(3) 看護の歴史・現在② グループ学習の共有
第6回	看護実践における重要な概念(1) 人間
第7回	看護実践における重要な概念(2) 健康（概要理解）
第8回	看護実践における重要な概念(3) 健康（事例からの検討）
第9回	看護実践における重要な概念(4) 環境
第10回	看護実践における重要な概念(5) 人間・健康・環境：事例で考える

第11回	看護実践の方法(1) 看護の役割と機能①：「看護対象実践」振り返りからの学び
第12回	看護実践の方法(2) 看護の役割と機能②：看護師に求められる力（個人ワーク）
第13回	看護実践の方法(3) 看護の役割と機能③：看護師に求められる力（グループワーク）
第14回	看護実践の方法(4) 看護実践とクリティカルシンキング・看護過程
第15回	まとめ 看護とは何か

履修上の注意事項	・ 課題が提示された際は提出期限を厳守すること。
準備学習（予習・復習等）	・ 授業の展開計画に該当するテキストの箇所を事前に読み、不明な用語や専門用語の意味等を調べ、理解しておくこと。 ・ 「発達援助論」「健康論」での学習内容を復習しておくこと。 ・ 1回の授業に対し4時間程度の時間外学習を行う。 ・ 予習及び復習課題はMoodleに提示する。Moodleは授業毎に必ず確認すること。
評価方法	授業の目的・目標に照らし、以下の内容で総合的に評価する。 ・ 授業内容の理解をみる単位認定試験：70% ・ 授業態度（参加度、授業毎のリフレクション）：30%
テキスト	・ 深井喜代子編（2021）『新体系看護学全書 基礎看護学① 看護学概論』メヂカルフレンド社（全員購入） ・ F. ナイチンゲール著（2023）『看護覚え書 第8版』現代社（全員購入）
参考文献	・ 医療情報科学研究所編(2023)『看護がみえる vol.5 対象の理解Ⅰ』メディックメディア（健康論・発達援助論で購入済み） ・ 野嶋佐由美(2021)『看護学の概念と理論』日本看護協会出版会 その他
学修のフィードバック方法	・ 課題（試験やレポート等）については、フィードバックを行う。 ・ ただし、単位認定試験（レポート等）については、予め科目担当者が指定した期限内に申し出のあった学生のみ対応する。
備考	・ アクティブラーニングの教授法：グループワーク、グループおよび全体ディスカッション等

シラバス参照

シラバス検索 > シラバス参照

印刷する

講義名	小児看護学		
代表ナンバリングコード	21349SC19		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
授業方法	対面授業		
単位	2		
単位区分	必		

所属名称	ナンバリングコード
看護栄養学部看護学科	21349SC19

担当教員

氏名
◎ 福永 知久
七川 正一
園田 麻利子
竹原 晴美

ディプロマ・ポリシーとの関連	◎汎用的技能 ○知識・理解 ○態度・志向性
到達目標	疾患や障がいをもつ子どもと家族の置かれている状況を理解し、子どもと家族がその人らしく生き生きと生活できるよう身体的・精神的・社会的援助について学ぶ。 1. 子どもの人権と権利について述べるができる。 2. あらゆる健康レベルにある子どもや家族への看護の役割について説明できる。 3. 健康障害が子どもとその家族に及ぼす影響について説明できる。
授業の展開計画	あらゆる場面において、子どもの人権と権利が尊重されることを基盤に、子どもの成長・発達と家族へのかかわりを見据えた看護のあり方について授業を展開する。さらに、様々な健康障害をきたした子どもと家族への看護とケアについて授業を展開する。 小児看護領域における専門職（看護師・医師）としての実務経験による具体的な事例をあげながら、授業を展開する。

授業計画表

回	内容
第1回	ガイダンス、小児看護の役割【福永】
第2回	小児看護技術① バイタルサイン、与薬、生活援助、安全【福永】
第3回	小児看護技術② プレパレーション、治療、検査【福永】
第4回	小児看護技術③ 遊びの工夫 企画書作成【福永】
第5回	小児看護技術④ 遊びの工夫 準備・発表【福永】
第6回	ヒトの発生過程、新生児の分類と用語、新生児仮死【特別講師・七川】
第7回	新生児の呼吸障害、高ビリルビン血症【特別講師・七川】
第8回	食道閉鎖症、肥厚性幽門狭窄症、ヒルシュスブルング病、直腸肛門奇形【特別講師・七川】
第9回	心室中隔欠損症、心房中隔欠損症、動脈管開存症【特別講師・七川】
第10回	ファロー四徴症、大血管転位症【特別講師・七川】
第11回	胎児循環、川崎病【特別講師・七川】

第12回	髄膜炎、IgA血管炎、血友病【特別講師・七川】
第13回	ミニテストと解説【特別講師・七川】
第14回	子どもの主体性を尊重したケア① オレムのセルフケア不足理論・事例紹介【福永】
第15回	子どもの主体性を尊重したケア② 看護理論を活用したアセスメント（普遍的セルフケア要件）【福永】
第16回	子どもの主体性を尊重したケア③ 看護理論を活用したアセスメント（発達の・健康逸脱に対するセルフケア要件）【福永】
第17回	子どもの主体性を尊重したケア④ 看護計画立案【福永】
第18回	子どもの主体性を尊重したケア⑤ 看護計画修正、支援の検討【福永】
第19回	子どもの主体性を尊重したケア⑥ 看護支援の検討【福永】
第20回	子どもの主体性を尊重したケア⑦ 看護支援の実際（ロールプレイング演習）【福永】
第21回	子どもの主体性を尊重したケア⑧ 看護支援の実際（ロールプレイング演習）【福永】
第22回	小児看護の特徴と実践①【特別講師・園田】
第23回	小児看護の特徴と実践②【特別講師・七川】
第24回	先天異常、親の心理支援、権利擁護、検査の説明、与薬、検査介助【福永】
第25回	感染症、予防接種、小児の事故、虐待【福永】
第26回	気管支喘息、腸重積症、1型糖尿病【福永】
第27回	ネフローゼ症候群、急性糸球体腎炎【福永】
第28回	てんかん、斜視、急性中耳炎【福永】
第29回	障がいがある子どもと家族への看護① 動向と小児看護の目的・役割【福永】
第30回	障がいがある子どもと家族への看護② 多様な生活の場と子どもの権利【福永】

履修上の注意事項	1. これまで学んだ母性保健概論、発達援助論、健康論、小児看護学概論等をよく復習しておくこと。 2. 小児看護保健実践で学んだ子どもの発達等の知識に、小児看護実践で必要と思われる事柄を追加し、充実させる。
準備学習（予習・復習等）	教科書、配布資料、参考文献、ノートなどを日頃から見直し、内容を確認・整理しておくこと。 授業で出された課題については、自宅学習などを通して積極的に取り組むこと。 1回の授業に対し3時間程度の時間外学習。
評価方法	授業内容の理解を見る単位認定試験・ミニテスト40%、課題および学習態度60%（ルーブリック評価）で総合評価する。
テキスト	筒井真優美監修（2017）『小児看護学—子どもと家族の示す行動への判断とケア—第8版』日総研【以前の授業で購入済】 奈良間美保編（2025）『系統看護学講座 専門分野 小児看護学2 小児臨床看護各論 第15版』医学書院【全員購入】
参考文献	筒井真優美監修（2017）『パーフェクト臨床実習ガイド 小児看護 第2版』照林社 奈良間美保編（2020）『系統看護学講座 専門分野 小児看護学1 小児看護学概論 小児臨床看護総論 第14版』医学書院
学修のフィードバック方法	課題（試験やレポート等）については、フィードバックを行う。 ただし、単位認定試験（レポート等）については、予め科目担当者が指定した期限内に申し出のあった学生のみ対応する。
備考	アクティブ・ラーニングの教授法：問題解決学習、実践演習、グループワーク、ロールプレイング

シラバス参照

シラバス検索 > シラバス参照

印刷する

講義名	基礎看護技術 I（基本技術）		
代表ナンバリングコード	21149SB16		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
授業方法	対面授業		
単位	2		
単位区分	必		

所属名称	ナンバリングコード
看護栄養学部看護学科	21149SB16

担当教員
氏名
◎ 米元 富貴代
小楠 範子
山下 里奈
萩原 久美子
脇園 幸恵
奥平 綾美
新福 絵里香
濱田 寿美
疋田 幸喜
又木 真紀子
濱崎 清歌

ディプロマ・ポリシーとの関連	◎汎用的技術 ○知識・理解 ○態度・志向性
到達目標	基礎看護技術 I（基本技術）では、対象の理解と看護実践の基礎となる能力を養うために、看護の共通基本技術や日常生活の援助技術の修得を目指す。そのため、以下を目標とする。 1. 看護技術の特性を述べることができる。 2. 看護の共通基本技術や日常生活援助技術に関した基礎的知識を述べることができる。 3. 原理・原則に基づきながら、共通基本技術や援助技術を実施することができる。 4. 演習を通して、看護職としての基本的な態度や行動を示すことができる。
授業の展開計画	〈授業概要〉 本科目は、学内に実践の場を想定し、グループ学習や学生間における直接的な体験を主体とする。まず、専門職として看護職が行う看護技術の特殊性や科学的根拠に基づく看護技術の意義を学習する。次に看護の共通基本技術について、基礎的知識と方法を学ぶ。さらに、健康上のニーズを充足するために必要な日常生活援助技術に関する基礎的知識や安全・安楽・自立の視点に基づいた日常生活を支援する方法を学ぶ。加えて、一連の演習を通して、看護の役割を担う者としての倫理的態度を習得する。 なお、本科目は1回につき2コマずつ展開し、1～2グループ毎に担当教員を配置し指導する。講義・演習は病院における看護職としての実務経験に基づいた知識を含む。

授業計画表	
回	内容
第1回	ガイダンス、看護技術の特徴

第2回	コミュニケーションの特徴
第3回	看護記録
第4回	感染の基礎知識
第5回	手洗い・个人防护用具の使用方法（演習）
第6回	安楽確保の技術
第7回	安楽な体位保持・ボディメカニクス（演習）
第8回	活動・休息の援助技術－体位変換・移動－
第9回	体位変換・歩行介助（演習）
第10回	活動・休息の援助技術－移乗・移送－
第11回	車椅子による移送（演習）
第12回	ストレッチャーによる移送（演習）
第13回	環境を整える技術－ベッドメイキング－
第14回	ベッドの構造や操作方法（演習）
第15回	ベッドメイキング（演習）
第16回	環境を整える技術－シーツ交換－
第17回	シーツ交換（演習）
第18回	環境整備（演習）
第19回	フィジカルアセスメントにおける基本技術－バイタルサイン測定－
第20回	バイタルサイン測定－体温・呼吸・脈拍－（演習）
第21回	バイタルサイン測定－血圧－（演習）
第22回	バイタルサイン測定－血圧・体温・呼吸・脈拍－（演習）
第23回	フィジカルアセスメントにおける基本技術－身体計測－
第24回	身体計測－身長・体重・腹囲・握力－（演習）
第25回	体温管理・保湿の技術
第26回	温電法・冷電法（演習）
第27回	技術チェック－体温・呼吸－
第28回	技術チェック－脈拍・血圧－
第29回	技術再チェック
第30回	看護の共通基本技術や日常生活援助技術のまとめ

履修上の注意事項	・グループ演習による知識と技術の統合を基本とするため、原則として全時間出席を求める。なお、病気等にてやむを得ず欠席し、未修得の技術が生じた場合には、自らの申し出により補習を行うことがある。 ・提示された事前学習を行った上で、講義・演習に臨む。 ・学習課題の提出については別途指示するが、講義・演習時毎回持参する。 ・演習の都合上、項目を入れ替えて行うことがある。 ・学習効果を上げるために、2～3コマ続きで行うことがあるので、日程に注意する。 ・身だしなみを整えて演習に臨む。 ・実習室使用上の注意事項を厳守する。 ・演習後の片づけの当番を決めるため、責任を持って行う。
準備学習（予習・復習等）	・事前学習は、提示された学習課題を行う。また、各単元に関係する解剖・生理については講義の前に学習しておく。 ・事後学習は、提示された学習課題を行う。また、各単元の看護技術は、空き時間に何回も練習をして習得しておく。 ・1回の授業に対し1時間（週当たり2時間）程度の時間外学習を行う。
評価方法	筆記試験60%、学習課題20%（具体的評価方法は、オリエンテーションで提示する）、技術チェック10%、学習態度10%により総合的に評価する。
テキスト	深井喜代子編集(2021)『新体系 看護学全書 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ』メヂカルフレンド社（全員購入） 深井喜代子編集(2021)『新体系 看護学全書 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ』メヂカルフレンド社（全

	員購入) 竹尾恵子監修 (2019)『看護技術プラクティス 第4版』学研メディカル秀潤社（全員購入）
参考文献	必要に応じて、参考書の紹介や資料配布を行う。
学修のフィードバック方法	課題（試験や事前事後学習等）については、フィードバックを行う。 ただし、単位認定試験（課題等）については、予め科目担当者が指定した期限内に申し出のあった学生のみ対応する。
備考	アクティブ・ラーニングの教授法： 演習、グループ・ディスカッション、グループ・ワーク、ロールプレイング

[ページの先頭へ](#)

閉じる

シラバス参照

シラバス検索 > シラバス参照

印刷する

講義名	看護診断学		
代表ナンバリングコード	21249SB20		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
授業方法	対面授業		
単位	1		
単位区分	必		

所属名称	ナンバリングコード
看護栄養学部看護学科	21249SB20

担当教員

氏名
◎ 七川 正一
園田 麻利子
福岡 真理
奥平 綾美
檜柑 富貴子

ディプロマ・ポリシーとの関連	◎汎用的技能 ○知識・理解 ○態度・志向性 ○総合的な学習経験と創造的思考力
到達目標	目的 現象を科学的思考で捉える看護過程を「看護診断学概説」で学修し、「看護方法論実践」で看護過程の思考を用いて看護を展開することを体験した。このプロセスで看護過程が「分かる」レベルに達している。 看護過程を「分かる」段階から、ツールとして意図的に「使う」段階へステップアップできるよう基本的視点を身につけることが、本科目の目的である。 目標 1. ロイ適応看護モデルの4つの基本的構成要素(人間・環境・健康・看護)について説明することができる。 2. ロイ適応看護モデルの看護過程の概要を説明することができる。 3. 4つの適応様式を説明することができる。 4. ロイ適応看護モデルを用いて紙上事例の看護診断を行い、看護計画を立案することができる。 5. 実施した看護を評価するための視点を説明することができる。 6. 看護過程の思考を用いることによって、科学的で個別性のある看護の実践につながることを理解することができる。
授業の展開計画	概要 本科目では、ロイ適応看護モデルを用いて看護を展開し、看護過程の理解を深める。 ロイ適応看護モデルの4つの基本的構成要素(人間・環境・健康・看護)を学習し、ロイ適応看護モデルの4つの適応様式(生理的様式・自己概念様式・役割機能様式・相互依存様式)を理解した上で、紙上事例の看護を展開する。アセスメント・看護診断・計画の立案までの一連を演習で学習する。 病院における看護師としての実務経験による具体例を含んだ授業を展開する。

授業計画表

回	内容
第1回	ロイ適応看護論 (1) 4つの基本的構成要素 人間、環境、健康、看護
第2回	ロイ適応看護論 (2) ロイ適応看護モデルの看護過程 4つの適応様式 (生理的様式)

第3回	ロイ適応看護論(3) 4つの適応様式（自己概念様式、役割機能様式、相互依存様式）
第4回	ロイ適応看護論(4) 看護過程展開の概要
第5回	紙上事例の看護過程の展開(1) 対象特性から看護の方向性を考える①
第6回	紙上事例の看護過程の展開(2) 対象特性から看護の方向性を考える②
第7回	紙上事例の看護過程の展開(3) 行動のアセスメント（酸素化、栄養、活動と休息） グループ・ディスカッションとプレゼンテーション（学習発表）
第8回	紙上事例の看護過程の展開(4) 行動のアセスメント（排泄、防衛、感覚） グループ・ディスカッションとプレゼンテーション（学習発表）
第9回	紙上事例の看護過程の展開(5) 行動のアセスメント（水と電解質、内分泌） グループ・ディスカッションとプレゼンテーション（学習発表）
第10回	紙上事例の看護過程の展開(6) 行動のアセスメント（自己概念、役割機能、相互依存） グループ・ディスカッションとプレゼンテーション（学習発表）
第11回	紙上事例の看護過程の展開(7) 看護診断、目標設定・看護計画（その1）
第12回	紙上事例の看護過程の展開(8) 看護診断、目標設定・看護計画（その2）
第13回	紙上事例の看護過程の展開(9) 看護診断、目標設定・看護計画（その3）
第14回	紙上事例の看護過程の展開(10) 実施・評価（その1） 実施・評価の視点
第15回	紙上事例の看護過程の展開(11) 実施・評価（その2） 科学的で個別性のある看護過程 看護過程の継続性
履修上の注意事項	1. ファイル・ノートを準備し、配布資料の整理をして毎時間持参する。 2. 「看護診断学概説」「看護方法論実践」での学びを整理しておく。 3. グループ・ディスカッションに際しては事前学習をして臨むようにする。 4. 積極的に発言するなど能動的に授業に参加する。 5. 課題レポート等は必ず期限までに提出する（提出の遅れは減点となる）。
準備学習（予習・復習等）	1. 事前に次回の授業に必要な課題を提示するため、必ず自分で取り組んで参加する。 * 自己学習したものを基に、グループディスカッション、発表を行う予定である。 2. 既習の知識を活かして授業は展開されるため、看護過程・疾患・援助・本講義の復習をして授業に参加する。 3. 予習や復習をmoodleに提示するので、授業前後に確認し対応すること。 4. 1回の授業に対し1時間程度の時間外学習。
評価方法	1. 授業時の課題：10%（ルーブリック評価） 2. 最終レポート：50%（個人で展開した紙上事例に対する看護過程の提出）（ルーブリック評価） 3. 授業内容の理解を見る単位認定試験：40% 上記の総合評価
テキスト	1. ヒーサーA. アンドリュース/シスターC. ロイ著，松木光子監訳（2014）『ロイ適応看護論入門』医学書院（全員購入） 2. 竹尾恵子著（2015）『超入門 事例でまなぶ看護理論』学研メディカル秀潤社（看護診断学概説の講義で配布予定）
参考文献	1. 小田正枝編著（2019）『ロイ適応看護理論の理解と実践第2版』医学書院 2. 松木光子監訳（2010）『ザ・ロイ適応看護モデル第2版』医学書院 3. 任和子編著（2016）『実習記録の書き方がわかる看護過程展開ガイド』照林社
学修のフィードバック方法	課題（試験やレポート等）については、フィードバックを行う。 ただし、単位認定試験（レポート等）については、予め科目担当者が指定した期限内に申し出のあった学生のみ対応する。
備考	アクティブラーニングの教授方法：グループワーク、グループディスカッション等

講義名	生体防御・感染看護論		
代表ナンバリングコード	21149SC08		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
授業方法	対面授業		
単位	2		
単位区分	必		

所属名称	ナンバリングコード
看護栄養学部看護学科	21149SC08

担当教員
氏名
◎ 中野 智子

ディプロマ・ポリシーとの関連	◎汎用的技能 ○知識・理解 ○態度・志向性
到達目標	感染症の原因となる微生物（細菌、真菌、リケッチア、クラミジア、ウイルスなど）の性状、感染様式、発病機構、感染病態などを理解し、その感染症の予防・治療法・看護について学ぶ。 ①微生物の基本知識を学び、病原微生物が宿主・環境とどのように関わりあいながら、人に感染症を引き起こすかを理解できる。 ②感染症の感染様式を理解し、医療従事者として周囲への感染拡大防止、自らの感染症に罹患することを防止することの重要性を理解し実践できる。 ③感染に対する人の免疫応答について理解できる。 ④感染症診断における原則と基本的な流れについて理解できる。 ⑤各種感染症の代表的な原因微生物の臨床像や感染治療薬について理解できる。 ⑥感染症患者の症状、看護について理解できる。
授業の展開計画	講義は総論と各論に分けて行う。総論では、微生物・免疫学の発展の歴史、微生物学の基礎、微生物と感染症、免疫と生体防御機構、感染症の制御、化学療法と耐性菌について学修する。各論では微生物各論と感染症の臨床編、検査と診断、看護について学修する。なお、本科目は病院における感染管理認定看護師の実務経験からの業務の実際を考慮した内容も含む。

授業計画表	
回	内容
第1回	微生物学・免疫学発展の歴史、微生物学の基礎、微生物と感染症
第2回	免疫と生体防御機構
第3回	感染症の制御①
第4回	感染症の制御②
第5回	化学療法と耐性菌①
第6回	化学療法と耐性菌②
第7回	細菌学各論①
第8回	細菌学各論②
第9回	ウイルス各論
第10回	真菌学各論、原虫学各論
第11回	感染症の臨床編①
第12回	感染症の臨床編②
第13回	感染症でみられる症状、感染症の検査と診断
第14回	感染症患者の看護（感染性腸炎、インフルエンザ、薬剤耐性菌など）
第15回	感染症患者の看護（HIV・AIDS、COVID-19）
履修上の注意事項	授業展開計画に該当するテキストの範囲を事前に読んでおくこと。
準備学習（予習・復習等）	1回の授業に対し4時間程度の時間外学習。
評価方法	定期試験100%
テキスト	増澤俊幸（2020）『感染制御の基本がわかる 微生物学・免疫学』羊土社（全員購入） 岩田健太郎（2020）『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学（11）アレルギー、膠原病、感染症』医学書院（全員購入）
参考文献	各講義で提示
学修のフィードバック方法	課題（試験やレポート等）については、フィードバックを行う。 ただし、単位認定試験（レポート等）については、予め科目担当者が指定した期限内に申し出のあった学生のみ対応する。
備考	アクティブ・ラーニング教授法：グループディスカッション